

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																															
経専北海道観光専門学校		平成21年6月21日		中田 靖泰		〒 005-0003 (住所) 札幌市南区澄川3条6丁目4-3 (電話) 011-837-0200																															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																															
学校法人経専学園		昭和48年4月24日		山本 清		〒 005-0004 (住所) 札幌市南区澄川4条4丁目1-1 (電話) 011-824-1000																															
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																															
商業実務	商業実務専門課程	観光サービス学科(ホテル科)		平成22(2010)年度	-	平成26(2014)年度																															
学科の目的	本校は、教育基本法及び学校教育法の精神に則り、観光業界に幅広く携わる有能な人材を育成するとともに、ホスピタリティ精神を身につけた国際人を育成することによって、観光業界の発展に寄与することを目的とする。																																				
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	ホテル業界においてホテルの知識・技術を持った人材育成を目指す。 取得可能な資格レストランサービス技能検定3級 2022年度中退学者0名 中退率0%																																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,903 単位時間 単位			991 単位時間 単位	36 単位時間 単位	1,207 単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)																																	
300人	19人	0人		0%																																	
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>11</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>11</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>11</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>7</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>64</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和4年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) ホテル</p>									■卒業者数(C)	11	人	■就職希望者数(D)	11	人	■就職者数(E)	11	人	■地元就職者数(F)	7	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	64	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業者数(C)	11	人																																			
■就職希望者数(D)	11	人																																			
■就職者数(E)	11	人																																			
■地元就職者数(F)	7	人																																			
■就職率(E/D)	100	%																																			
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	64	%																																			
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%																																			
■進学者数	0	人																																			
■その他																																					
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																				
当該学科のホームページURL	https://www.keisen-kankou.com/course/hotel																																				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,903 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,543 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>16 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>360 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>									総授業時数	1,903 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,543 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	16 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	360 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	1,903 単位時間																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																				
うち必修授業時数	1,543 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	16 単位時間																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	360 単位時間																																				
総授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																				
うち必修授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																				
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>4人</td> </tr> </table>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	4人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	4人		4人														
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	4人																																				
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人																																				
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																				
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																				
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																				
計	4人																																				
	4人																																				

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学教育理念に基づき、早期からの職業理解や目的意識を持たせるためのキャリア形成支援を職業実務の実践性を含めた多様な教育プログラムで実施している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム編成に関して、企業及び業界団体等の意見・助言を活かしたカリキュラムの改善を図り、専修学校教育に必要な最新の知識・技術を反映するための連携体制を確立するために、教育課程編成委員会を学校長のもとに位置付ける。学校が編成したカリキュラム案を教育課程編成委員会に提案し、教育課程編成委員会は改善のための意見・助言を学校長に報告し、これを学校長が審議し、判断をすることになっている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
上野 文一	一般社団法人 日本ソムリエ協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
佐々木 博章	株式会社Yoichi Resort	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
秋野 正明	一般社団法人 日本旅行業協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
藤川 美樹	株式会社TEI	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
香川 朗	経専北海道観光専門学校		—
稲場 啓剛	経専北海道観光専門学校		—
宝賀 知之	経専北海道観光専門学校		—
藤崎 真希子	経専北海道観光専門学校		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年10月12日 16:00～17:00

第2回 令和5年3月13日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員より、英語力を強化すべきとの意見があり、その対策として語学授業の時間数を増やすことができないか議論した。継続検討し、次年度以降のカリキュラムに反映させる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本学教育理念に基づき、早期からの職業理解や目的意識を持たせるためのキャリア形成支援を職業実務の実践性を含めた多様な教育プログラムで実施している。また、業界の動向やその職業に従事するにあたって必要な知識、技能、能力や態度について実感をもって理解させる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

各ホテル・ブライダル企業に出向き、各地域、各分野の企業の目的・仕事内容について学びながら、総合的な仕事ができる為の基礎能力を養うことを目的とする。宿泊業務、飲料業務、宴会業務、客室業務の他に社会人マナーなどを就職する前に習得・体験させる。評価については、挨拶、積極性、仕事の質、身だしなみ、言葉使いなどについて判断していただく。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
企業実習	1年間学んだ事の総復習として、実際にホテル企業で実習し、ホテルの魅力や仕事の厳しさを知り、就職活動の第一歩とする。	札幌パークホテル、富士屋ホテル、札幌プリンスホテル、ルスツリゾート他
ホテルJack	ホテル業務についての学習の集大成として、実際のホテルで各業務を担当し、就職に向けての意識を向上させる	プレミアムホテル中島公園札幌

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校教育理念及び教育方針・指針に基づき、教育養成において指導力の向上を図りキャリア教育に関する必要な知識や指導方法を習得させるために「教職員研修」を実施する。

・産業団体や協会等が開催する講演会や研修に教員を派遣する。

・教育支援活動として協力いただいている企業と連携し、「必要とされる専門知識・技能の習得」等についての意見交換会を実施する

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Jプレゼンスアカデミー研修	連携企業等:	キャプラン株式会社
期間:	令和4年12月22日	対象:	教員
内容:	2年生の面接対策セミナーに同行、オブザーバーとして5時間程度のセミナーを聴講する。		
研修名:	Bridalツアー	連携企業等:	ブライダルハウスBIBI
期間:	令和4年5月26日	対象:	教員
内容:	現在のブライダル業界におけるブライダル運営方法・最新事情を理解し、学生に与える授業内容の更新に役立てる。		
研修名:	添乗研修	連携企業等:	株式会社TEI
期間:	令和4年5月23日	対象:	教員
内容:	添乗実務研修において、現役添乗員と一緒に同行し現場における指導方法並びに今後の指導に役立てる。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	教員研修	連携企業等:	北海道専修学校各種学校連合会
期間:	令和4年8月2日	対象:	教員
内容:	専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上。教育関連講義を受講し、授業方法、学生指導に役立てる。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Jプレゼンスアカデミー研修	連携企業等:	キャプラン株式会社
期間:	令和5年12月	対象:	教員
内容	2年生の面接対策セミナーに同行、オブザーバーとして5時間程度のセミナーを聴講する。		
研修名:	Bridalツアー	連携企業等:	ブライダルハウスBIBI
期間:	令和5年5月	対象:	教員
内容	現在のブライダル業界におけるブライダル運営方法・最新事情を理解し、学生に与える授業内容の更新に役立てる。		
研修名:	添乗研修	連携企業等:	株式会社TEI
期間:	令和5年5月	対象:	教員
内容	添乗実務研修において、現役添乗員と一緒に同行し現場においての指導方法並びに今後の指導に役立てる。		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	教員研修	連携企業等:	北海道専修学校各種学校連合会
期間:	令和5年8月	対象:	教員
内容	専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上。教育関連講義を受講し、授業方法、学生指導に役立てる。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本学は、常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめとする教育活動や教育環境、学校運営の状況について、自己点検・評価はもとより、企業等、学校関係者等が評価に参画する学校関係者評価委員会を設置して客観的な点検及び評価を行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員より、教える側もこちらの常識にとらわれることなく、学生を見て、理解度をはかりながら指導していくことが必要との提案を受け、教育内容の見直し、充実を尚一層図っていくこととした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
能代 茂	学校法人札幌静修学園 札幌静修高等学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校
中村 正彦	JR北海道ホテルズ株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業
木田 武	セブンイレブン札幌自衛隊前店	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域住民
大上 祥矢	名鉄観光サービス株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.keisen-kankou.com/>

公表時期: 令和5年8月1日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 観光サービス学科 (ホテル科))														
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所			企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	
	○			宿泊概論	ホテルの宿泊部における基本事項の学び、宿泊部門の仕事を理解する	1前	24	○			○			○
	○			宿泊基礎実務	ホテルスタッフとして身に付けるべき接客・マナー、ホスピタリティに関する実技を習得する	1通	48			○	○			○
	○			ホテルシステム	ホテルシステムの中でも世界的に普及しているオペラシステムの操作を学び、現場での対応性を強化する	1通2前	72			○	○			○
	○			宿泊オペレーション	宿泊業務の一連の流れと役割を理解し、オペラシステムを使用し、予約～チェックイン～チェックアウトのオペレーションを習得	2通	48			○	○			○
	○			料飲概論	国家資格であるレストランサービス技能検定3級合格に必要な知識を取得	1通2前	72	○			○			○
	○			料飲基礎実務	料飲部門のスタッフとしての基本知識・技術を習得し、日常接客業務身に付ける	1通2前	72			○	○			○
	○			総合飲料知識	料飲サービスの基本となる飲料の特性を理解しホテルバーテンダー業務を通して実践的に学ぶ	1後2前	48			○	○			○
	○			和食概論	日本古来の和食の文化・習慣・サービス方法を理解する	2通	48	○			○			○
	○			ホテルビジネス	ホテル全体の知識をホテルビジネス実務検定対策を通して学ぶ(ホテルの歴史・レストラン・宴会・調理)	1通	48	○			○			○
	○			AG-English	英会話トレーニングで英語でのコミュニケーション能力のレベルアップを図る	1通2通	##	○			○			○
	○			バンケットサービス	ホテル宴会業務のサービス・会場設営などのスタンバイ業務を実務トレーニングを通して身に付ける	1通	48			○	○			○
	○			レストランマネジメント	レストランにおけるマネジメント業務の一つ、売上管理方法を理解すると共に食材の知識をや特性を理解する	2前	24	△		○	○			○
	○			ソムリエ実務	ホテルレストランで働く上でのワインサービスの知識、技術を現役ソムリエの実務トレーニングを通して学ぶ	2通	48	△		○	○			○
	○			ホテルランクアップ	ホテルレストランで高等技術とされるワゴンサービスを中心に食材と飲料の基礎知識を応用して実務トレーニングで学ぶ	2後	24			○	○			○
	○			エンターテインメント	エンターテインメントを理解すると共に、クリエイターとして人を楽しませる技術を習得する	2通	48			○	○			○
	○			リゾートリサーチ	アミューズメント/パフォーマンスを研究・体感し、リゾートホテルの接客技術を習得する	2後	24			○	○			○
	○			パソコン	業界必須のマイクロオフィスのソフトを理解し、検定合格を目標とする	1後2通	72			○	○			○
	○			SPI-3	就職試験で行われる筆記試験対策授業	1後	24	○			○			○
	○			マナー・プロトコール	業界人として必要な正しいマナーやプロトコール(国際儀礼)をマナープロトコール検定対策を通して身に付ける	1前	48	○			○			○
	○			ノーマライゼーション	身体障がいのあるお客様に対しての基本的な知識と対応(接客姿勢)を座学と実技を通して身に付ける	1前	24	○			○			○
	○			手話	聴力障がいのあるお客様に対しての基本的な知識と対応(接客姿勢)を座学と実技を通して身に付ける	2後	24	○			○			○
	○			面接対策	就職内定獲得に向けた面接のポイントを学ぶ	1後2前	48	○			○			○
	○			就職対策ゼミ	就職内定獲得を目標に、履歴書、志望動機、自己PR、採用試験、面接等のスキルアップを図る	1後2前	36	○			○			○
	○			コミュニケーション心理学	企業側が採用する人材として、最も重要視されるコミュニケーション能力を身につける	2後	24	○			○			○
	○			業界ゼミ	現役業界人をキャリアモデルとして捉えると同時に、ホテルの現場の新鮮な情報を得て業界への関心を拡大する	1前	12	○			○			○
	○			インテグラルスタディ	1年半学習したことを活かし、最後のイベントとなるホテルジャックについてプランニングする	2後	72	△		○	○			○
	○			HR	必要事項の連絡とクラスコミュニケーションを図る	1通2通	48	○			○			○

28	○	オリエンテーション	入学時または進級時のモチベーションを維持させる為、学校ルールの説明に加え、業界講話やクラスコミュニケーションを実施する	1 通 2 通	45		○	△	○	○		
29	○	Firstステイ	実際にお客様としてホテルを利用して、ホテルの機能やホテルスタッフの接客態度を学び、学生生活に必要な心構えや、将来ホテルマンに必要な最低限の心構えやマナーを身に付ける	1 前	16		○	△	△	○	○	
30	○	Tableマナー	フランス料理のフルコースを体験し、ホテルスタッフとして必要なフランス料理のメニュー・サービス技術・テーブルマナーを身に付ける	1 前	4		△	△	○	○	○	
31	○	プレホテルJack	宴会のホテルサービスが行われる様子を体験し、学習内容の理解を深めると共に、学習の到達目標を意識付ける。	1 後	4		○	△	○	○		
32	○	Tokyoディスカバリー	東京の国際的なシティホテルに宿泊し、北海道では見られない大規模ホテルのサービスや国際性を体験することで、ホテル業界についてより深い知識と理解を得る	1 後	32		△	○	○	○		
33	○	Resortステイ	北海道のリゾートホテルに宿泊し、リゾートの接客技術を理解する	1 前 2 前	32				○	○	○	
34	○	ホテルJack	ホテル業務についての学習の集大成として、実際のホテルで各業務を担当し、就職に向けての意識を向上させる	2 後	16			△	○	○	○	○
35	○	企業実習	1年間学んだ事の総復習として、実際にホテルで実習し、ホテル業の魅力や仕事の厳しさを知り、就職活動の第一歩とする	1 後	##				○	○	○	○
36	○	HRS夏季集中講座	国家資格である、レストラン・サービス技能検定3級資格取得を目的とする検定直前対策授業	2 前	24		○			○	○	○
37	○	3期集中講座	業界にかかわる様々な知識やトレンドに触れ、体験することで業界の魅力を感じ、業界就職時に活用できる実践的な科目	2 後	50		△	○	○	○	○	○
合計					37	科目	1903 単位 (単位時間)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	前、後期評定「可(50点)」以上、出席率90%以上	1学年の学期区分	2期
履修方法:	指定された科目を履修	1学期の授業期間	13週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
経専北海道観光専門学校		平成21年6月21日		中田 靖泰		〒 005-0003 (住所) 札幌市南区澄川3条6丁目4-3 (電話) 011-837-0200		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人経専学園		昭和48年4月24日		山本 清		〒 005-0004 (住所) 札幌市南区澄川4条4丁目1-1 (電話) 011-824-1000		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
商業実務	商業実務専門課程	観光サービス学科(エアライン科)	平成22(2010)年度	-	平成26(2014)年度			
学科の目的	本校は、教育基本法及び学校教育法の精神に則り、観光業界に幅広く携わる有能な人材を育成するとともに、ホスピタリティ精神を身につけた国際人を育成することによって、観光業界の発展に寄与することを目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	エアライン業界においてグランドスタッフ、キャビンアテンダント業務の知識・技術を持った人材育成を目指す。 取得可能な資格:実用英語検定2級 2022年度中退学者2名 中退率10.5%							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,746 単位時間 単位		1,306 単位時間 単位	96 単位時間 単位	543 単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)				
300人	15人	0人		0%				
就職等の状況	■卒業者数(C)		12人					
	■就職希望者数(D)		12人					
	■就職者数(E)		12人					
	■地元就職者数(F)		12人					
	■就職率(E/D)		100%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		100%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100%					
	■進学者数		0人					
	■その他							
	(令和4年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 航空関連施設、ホテル								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載			無				
評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://www.keisen-kankou.com/course/hotel							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数		1,746 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間						
うち必修授業時数		1,746 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		96 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間						
(B:単位数による算定)								
総授業時数		単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位						
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位						
うち必修授業時数		単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		4人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人					
	計		4人					
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		4人						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学教育理念に基づき、早期からの職業理解や目的意識を持たせるためのキャリア形成支援を職業実務の実践性を含めた多様な教育プログラムで実施している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム編成に関して、企業及び業界団体等の意見・助言を活かしたカリキュラムの改善を図り、専修学校教育に必要な最新の知識・技術を反映するための連携体制を確立するために、教育課程編成委員会を学校長のもとに位置付ける。学校が編成したカリキュラム案を教育課程編成委員会に提案し、教育課程編成委員会は改善のための意見・助言を学校長に報告し、これを学校長が審議し、判断をすることになっている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
上野 文一	一般社団法人 日本ソムリエ協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
佐々木 博章	株式会社Yoichi Resort	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
秋野 正明	一般社団法人 日本旅行業協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
藤川 美樹	株式会社TEI	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
香川 朗	経専北海道観光専門学校		—
稲場 啓剛	経専北海道観光専門学校		—
宝賀 知之	経専北海道観光専門学校		—
藤崎 真希子	経専北海道観光専門学校		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年10月12日 16:00～17:00

第2回 令和5年3月13日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員より、英語力を強化すべきとの意見があり、その対策として語学授業の時間数を増やすことができないか議論した。継続検討し、次年度以降のカリキュラムに反映させる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本学教育理念に基づき、早期からの職業理解や目的意識を持たせるためのキャリア形成支援を職業実務の実践性を含めた多様な教育プログラムで実施している。また、業界の動向やその職業に従事するにあたって必要な知識、技能、能力や態度について実感をもって理解させる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

各ホテル・ブライダル企業に出向き、各地域、各分野の企業の目的・仕事内容について学びながら、総合的な仕事ができる為の基礎能力を養うことを目的とする。宿泊業務、飲料業務、宴会業務、客室業務の他に社会人マナーなどを就職する前に習得・体験させる。評価については、挨拶、積極性、仕事の質、身だしなみ、言葉使いなどについて判断していただく。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
予約端末	旅行・航空業界で航空座席やホテル等旅行商品を手配する為のコンピュータ予約システムの操作を学ぶ。	株式会社インフィニトラベルインフォメーション

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 本校教育理念及び教育方針・指針に基づき、教育養成において指導力の向上を図りキャリア教育に関する必要な知識や指導方法を習得させるために「教職員研修」を実施する。 ・産業団体や協会等が開催する講演会や研修に教員を派遣する。 ・教育支援活動として協力いただいている企業と連携し、「必要とされる専門知識・技能の習得」等についての意見交換会を実施する	
(2)研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: Jプレゼンスアカデミー研修	連携企業等: キャプラン株式会社
期間: 2022年12月22日	対象: 教員
内容 2年生の面接対策セミナーに同行、オブザーバーとして5時間程度のセミナーを聴講する。	
研修名: Bridalツアー	連携企業等: ブライダルハウスBIBI
期間: 2022年5月26日	対象: 教員
内容 現在のブライダル業界におけるブライダル運営方法・最新事情を理解し、学生に与える授業内容の更新に役立てる。	
研修名: 添乗研修	連携企業等: 株式会社TEI
期間: 2022年5月23日	対象: 教員
内容 添乗実務研修において、現役添乗員と一緒に同行し現場においての指導方法並びに今後の指導に役立てる。	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 教員研修	連携企業等: 北海道専修学校各種学校連合会
期間: 2022年8月2日	対象: 教員
内容 専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上。教育関連講義を受講し、授業方法、学生指導に役立てる。	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Jプレゼンスアカデミー研修	連携企業等:	キャプラン株式会社
期間:	令和5年12月	対象:	教員
内容	2年生の面接対策セミナーに同行、オブザーバーとして5時間程度のセミナーを聴講する。		
研修名:	Bridalツアー	連携企業等:	ブライダルハウスBIBI
期間:	令和5年5月	対象:	教員
内容	現在のブライダル業界におけるブライダル運営方法・最新事情を理解し、学生に与える授業内容の更新に役立てる。		
研修名:	添乗研修	連携企業等:	株式会社TEI
期間:	令和5年5月	対象:	教員
内容	添乗実務研修において、現役添乗員と一緒に同行し現場においての指導方法並びに今後の指導に役立てる。		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	教員研修	連携企業等:	北海道専修学校各種学校連合会
期間:	令和5年8月	対象:	教員
内容	専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上。教育関連講義を受講し、授業方法、学生指導に役立てる。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本学は、常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめとする教育活動や教育環境、学校運営の状況について、自己点検・評価はもとより、企業等、学校関係者等が評価に参画する学校関係者評価委員会を設置して客観的な点検及び評価を行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員より、教える側もこちらの常識にとらわれることなく、学生を見て、理解度をはかりながら指導していくことが必要との提案を受け、教育内容の見直し、充実を尚一層図っていくこととした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
能代 茂	学校法人札幌静修学園 札幌静修高等学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校
中村 正彦	JR北海道ホテルズ株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業
木田 武	セブンイレブン札幌自衛隊前店	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域住民
大上 祥矢	名鉄観光サービス株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.keisen-kankou.com/>

公表時期: 2023年8月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等と組織的連携体制を確保し、より質の高い教育を提供することを目的として、企業等の学校関係者に対し、「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に則った情報を積極的に提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	「学校所在地、連絡先等」「学校教育目標」
(2) 各学科等の教育	「入学定員」「カリキュラム」「卒業後の進路」「目指す資格」
(3) 教職員	「教員数」
(4) キャリア教育・実践的職業教育	「就職支援等への取り組み状況」
(5) 様々な教育活動・教育環境	「学校行事への取り組み状況」
(6) 学生の生活支援	「学生・生活指導への取り組み状況」
(7) 学生納付金・修学支援	「入学者選抜の方針・方法」「学生納付金の取り扱い」
(8) 学校の財務	「財務諸表等」
(9) 学校評価	「学校関係者評価の結果」
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.keisen-kankou.com/>

公表時期: 2023年8月1日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 観光サービス学科 (エアライン科))															
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			航空業界知識	航空業界の知識を正しく理解して、航空業界での仕事を円滑に行う為に必要な科目	1通	48	○			○			○	○
	○			国内線航空約款	航空業界で国内線業務を行う上で、必要となる国内航空約款と国内航空運賃を学ぶ	1前	12	○			○			○	
	○			国際線基礎知識	グランドスタッフとして、国際線を利用する旅客を取り扱う上での基礎知識・国際航空約款を身に付ける	1通 2前	60	○			○		○		
	○			エアライン実習(カウンター)	空港で行うサービス対応を学び、スムーズに行う演習を行うことで将来に役立つ知識を習得する	1後 2通	72			○	○			○	
	○			エアライン実習(機内サービス)	航空機内で行うサービス対応を学び、スムーズに行う演習を行うことで将来に役立つ知識を習得する	1後 2通	72			○	○			○	
	○			航空業界研究	各航空会社、空港を調べ比較することで特徴を理解し、就職試験に役立てる	1後	12	○			○		○		
	○			航空予約端末演習	航空会社の予約システムを理解し、able国内線初級の検定取得を目指す	1前	24		○		○		○		○
	○			航空予約端末演習Ⅱ	航空会社の予約システムを理解し、INFINI国際線検定予約初級の検定取得を目指す	1後	24		○		○		○		○
	○			航空券予約端末演習Ⅲ	航空会社の予約システムを理解し、INFINI国際線検定予約中級の検定取得を目指す	2通	48		○		○		○		○
	○			国内地理実務	道内の観光地、特産物、土産物を旅行者に案内ができる知識を身に付ける	1前	24	○			○			○	
	○			海外観光地理	海外の国の文化、観光地、特産物の知識を身に付ける	1前	24	○			○			○	
	○			海外旅行実務	海外旅行を行う上で行われる出入国の手続きや流れ、査証条件などを学ぶ	1通	36	○			○		○		
	○			JR時刻表実務	航空機遅延時の代替案として、地上移動手段を提案する為、時刻表の活用方法を学ぶ	2前	24	○			○			○	
	○			BASIC英語	航空業界就職において必須となるTOEIC600点以上合格を目指す	1通 2通	96	○			○			○	
	○			ステップアップ英語	訪日外国人とスムーズに対応できる英語を取得し、TOEIC700点以上合格を目指す	1通 2通	336	○			○			○	
	○			韓国語	訪日韓国人とスムーズに対応出来る韓国語を習得し、韓国語能力試験4級合格を目指す	1通 2通	336	○			○			○	
	○			中国語	訪日中国人とスムーズに対応出来る韓国語を習得し、中国語検定3級合格を目指す	1通 2通	336	○			○			○	
	○			エアライン英会話	航空業界で必須となる英会話を学び、外国人旅行者の接客する為の知識を養う	2前	24	○			○			○	
	○			手話	聴力障がい者に対する基本的な対応(接客姿勢)を学ぶ	2後	24	△		○	○			○	
	○			日本語検定	正しい言葉遣いを学び検定合格とともに、就職試験に活用できるようになる	1通	48	○			○			○	
	○			マナー・プロトコル検定	ANA、JALが取得推奨しているマナー・プロトコル検定3級合格を目指す	1前	36				○			○	
	○			インバウンド検定対策	訪日外国人との対応方法を学び、検定取得を目指す	2通	36	○			○			○	
	○			卒業研究(旅行企画)	航空業界のサービスを深く調べることで業界知識をより深め、2年間の授業の総まとめをする	2後	48	△		○	○			○	
	○			パソコン	パソコン操作は現代社会で必要不可欠である為、ワード・エクセル操作を学び、パソコン検定取得を目指す	2後	48	△		○	○			○	
	○			就職ゼミ	就職に関するルールの説明、就職活動の流れを理解し、就職内定を獲得する為の指導を行う	1後 2通	36	○			○			○	
	○			就職対策	就職活動開始に向けての準備(適性検査・セミナー・ペン字講習他)を行う	1後	12	○			○			○	
	○			筆記試験対策(SPI)	就職試験で実施される筆記試験の対策として一般教養を学ぶ	1通	36	○			○			○	

28	○	面接対策	就職試験において必須となる面接試験の為の模擬面接等の実技を中心にロールプレイを行う	1 後 2 前	48				○	○	○	
29	○	社会人雑学	保険の仕組みや社会ルールを学び、社会人としての自覚を持つ	2 前	12		○			○	○	
30	○	新人教育	入社後に行う新人教育の意義や社会人マナーを学ぶ	2 後	48		○			○	○	
31	○	ホスピタリティ	ホスピタリティ概念を学びケーススタディを学習する	2 後	24		○			○	○	
32	○	HR	必要事項の伝達及びクラス内のコミュニケーションをとる	1 通 2 通	48		○			○	○	
33	○	春季 特別授業	入学当初及び進級後のモチベーションを維持させる為、学校ルールの説明に加え、観光業界で活躍する卒業生を招き、業界講話を実施する	1 前 2 前	59		○			○	○	○
34	○	オンライン英会話	航空業界で必要不可欠な英語を学ぶため、個々にオンラインを通して英語力を身に付ける	1 通	120				○	○	○	○
35	○	エアポートリサーチファーストステイ	北海道の空の玄関口である新千歳空港にて、各航空会社や施設見学を行う	1 前	16		○			○	○	○
36	○	羽田/成田空港研修旅行	日本の空の玄関口である羽田/成田空港を見学し、新千歳空港と比較研究し航空業界の理解を深める	1 前	24		△		○	○	○	
37	○	秋季 特別授業	秋頃実施される語学系検定、日本語検定合格に向けた	1 後	30		○	△	○			○
38	○	海外研修旅行	海外旅行実務で学んだ旅券・査証・出入国の知識を旅行を通して確認し、海外地理で学んだ有名観光地を訪れ海外旅行を理解する	1 後	32				○	○	○	
39	○	パソコン 特別授業	社会人に必要なパソコンスキルを身に付ける	1 後	17		△		○	○		○
40	○	冬季 特別授業	2月実施の実用英語検定の取得に向けた検定対策と就職に向けた業界知識やサービスについて学ぶ	1 後	8		△		○	○		○
合計					40	科目	1746 単位 (単位時間)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：前、後期評定「可(50点)」以上、出席率90%以上		1学年の学期区分	2期
履修方法：指定された科目を履修		1学期の授業期間	12週

- (留意事項)
- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																															
経専北海道観光専門学校		平成21年6月21日		中田 靖泰		〒 005-0003 (住所) 札幌市南区澄川3条6丁目4-3 (電話) 011-837-0200																															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																															
学校法人経専学園		昭和48年4月24日		山本 清		〒 005-0004 (住所) 札幌市南区澄川4条4丁目1-1 (電話) 011-824-1000																															
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																															
商業実務	商業実務専門課程	観光サービス学科(ウェディング科)		平成22(2010)年度	-	平成26(2014)年度																															
学科の目的	本校は、教育基本法及び学校教育法の精神に則り、観光業界に幅広く携わる有能な人材を育成するとともに、ホスピタリティ精神を身につけた国際人を育成することによって、観光業界の発展に寄与することを目的とする。																																				
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	ウェディング業界においてブライダルの知識・技術を持った人材育成を目指す。 取得可能な資格:3級ブライダルコーディネート技能検定 レストランサービス技能検定 2022年度中退学者0名 中退率0%																																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,925 単位時間 単位		1,055 単位時間 単位	70 単位時間 単位	1,225 単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)																																	
300人	12人	0人		0%																																	
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>5</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>5</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>5</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>3</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>60</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和4年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) ブライダル関連施設、ホテル</p>									■卒業者数(C)	5	人	■就職希望者数(D)	5	人	■就職者数(E)	5	人	■地元就職者数(F)	3	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	60	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業者数(C)	5	人																																			
■就職希望者数(D)	5	人																																			
■就職者数(E)	5	人																																			
■地元就職者数(F)	3	人																																			
■就職率(E/D)	100	%																																			
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	60	%																																			
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%																																			
■進学者数	0	人																																			
■その他																																					
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																				
当該学科のホームページURL	https://www.keisen-kankou.com/course/hotel																																				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,925 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,565 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>360 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>									総授業時数	1,925 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,565 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	360 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	1,925 単位時間																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																				
うち必修授業時数	1,565 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	360 単位時間																																				
総授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																				
うち必修授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																				
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>4人</td> </tr> </table>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	4人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	4人		4人														
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	4人																																				
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人																																				
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																				
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																				
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																				
計	4人																																				
	4人																																				

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学教育理念に基づき、早期からの職業理解や目的意識を持たせるためのキャリア形成支援を職業実務の実践性を含めた多様な教育プログラムで実施している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム編成に関して、企業及び業界団体等の意見・助言を活かしたカリキュラムの改善を図り、専修学校教育に必要な最新の知識・技術を反映するための連携体制を確立するために、教育課程編成委員会を学校長のもとに位置付ける。学校が編成したカリキュラム案を教育課程編成委員会に提案し、教育課程編成委員会は改善のための意見・助言を学校長に報告し、これを学校長が審議し、判断をすることになっている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
上野 文一	一般社団法人 日本ソムリエ協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
佐々木 博章	株式会社Yoichi Resort	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
秋野 正明	一般社団法人 日本旅行業協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
藤川 美樹	株式会社TEI	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
香川 朗	経専北海道観光専門学校		—
稲場 啓剛	経専北海道観光専門学校		—
宝賀 知之	経専北海道観光専門学校		—
藤崎 真希子	経専北海道観光専門学校		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年10月12日 16:00～17:00

第2回 令和5年3月13日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員より、英語力を強化すべきとの意見があり、その対策として語学授業の時間数を増やすことができないか議論した。継続検討し、次年度以降のカリキュラムに反映させる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本学教育理念に基づき、早期からの職業理解や目的意識を持たせるためのキャリア形成支援を職業実務の実践性を含めた多様な教育プログラムで実施している。また、業界の動向やその職業に従事するにあたって必要な知識、技能、能力や態度について実感をもって理解させる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

各ホテル・ブライダル企業に出向き、各地域、各分野の企業の目的・仕事内容について学びながら、総合的な仕事ができる為の基礎能力を養うことを目的とする。宿泊業務、飲料業務、宴会業務、客室業務の他に社会人マナーなどを就職する前に習得・体験させる。評価については、挨拶、積極性、仕事の質、身だしなみ、言葉使いなどについて判断していただく。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
企業実習	1年間学んだ事の総復習として、実際にホテル企業で実習し、ホテルの魅力や仕事の厳しさを知り、就職活動の第一歩とする。	ブライダルハウスチュチュ、ブライダルハウスBIBI、グローヴエンターテイメント

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校教育理念及び教育方針・指針に基づき、教育養成において指導力の向上を図りキャリア教育に関する必要な知識や指導方法を習得させるために「教職員研修」を実施する。

・産業団体や協会等が開催する講演会や研修に教員を派遣する。

・教育支援活動として協力いただいている企業と連携し、「必要とされる専門知識・技能の習得」等についての意見交換会を実施する

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Jプレゼンスアカデミー研修	連携企業等:	キャプラン株式会社
期間:	2022年12月22日	対象:	教員
内容	2年生の面接対策セミナーに同行、オブザーバーとして5時間程度のセミナーを聴講する。		
研修名:	Bridalツアー	連携企業等:	ブライダルハウスBIBI
期間:	2022年5月26日	対象:	教員
内容	現在のブライダル業界におけるブライダル運営方法・最新事情を理解し、学生に与える授業内容の更新に役立てる。		
研修名:	添乗研修	連携企業等:	株式会社TEI
期間:	2022年5月23日	対象:	教員
内容	添乗実務研修において、現役添乗員と一緒に同行し現場における指導方法並びに今後の指導に役立てる。		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	教員研修	連携企業等:	北海道専修学校各種学校連合会
期間:	2022年8月2日	対象:	教員
内容	専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上。教育関連講義を受講し、授業方法、学生指導に役立てる。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Jプレゼンスアカデミー研修	連携企業等:	キャプラン株式会社
期間:	令和5年12月	対象:	教員
内容	2年生の面接対策セミナーに同行、オブザーバーとして5時間程度のセミナーを聴講する。		
研修名:	Bridalツアー	連携企業等:	ブライダルハウスBIBI
期間:	令和5年5月	対象:	教員
内容	現在のブライダル業界におけるブライダル運営方法・最新事情を理解し、学生に与える授業内容の更新に役立てる。		
研修名:	添乗研修	連携企業等:	株式会社TEI
期間:	令和5年5月	対象:	教員
内容	添乗実務研修において、現役添乗員と一緒に同行し現場においての指導方法並びに今後の指導に役立てる。		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	教員研修	連携企業等:	北海道専修学校各種学校連合会
期間:	令和5年8月	対象:	教員
内容	専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上。教育関連講義を受講し、授業方法、学生指導に役立てる。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本学は、常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめとする教育活動や教育環境、学校運営の状況について、自己点検・評価はもとより、企業等、学校関係者等が評価に参画する学校関係者評価委員会を設置して客観的な点検及び評価を行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員より、教える側もこちらの常識にとらわれることなく、学生を見て、理解度をはかりながら指導していくことが必要との提案を受け、教育内容の見直し、充実を尚一層図っていくこととした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
能代 茂	学校法人札幌静修学園 札幌静修高等学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校
中村 正彦	JR北海道ホテルズ株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業
木田 武	セブンイレブン札幌自衛隊前店	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域住民
大上 祥矢	名鉄観光サービス株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.keisen-kankou.com/>

公表時期: 2023年8月1日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 観光サービス学科 (ウェディング科))														
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所			企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	
	○			マナー・プロトコール	業界人として必要な正しいマナーやプロトコール(国際儀礼)をマナープロトコール検定対策を通して身に付ける	1前	48	○			○		○	
	○			SPI-3	就職試験で行われる筆記試験対策授業	1後	24	○			○		○	
	○			ノーマライゼーション	身体障がいのあるお客様に対しての基本的な対応(接客姿勢)を学ぶ	1前	24	○			○		○	
	○			手話	聴力障がいのあるお客様に対しての基本的な対応(接客姿勢)を学ぶ	2後	24	○			○		○	
	○			パソコン	パソコンを使った文書作成・表計算練習。検定取得を目指す。	1後2通	72			○	○		○	
	○			料飲概論	国家資格であるレストランサービス技能検定3級合格に必要な知識を取得	1通2前	72	○			○		○	
	○			料飲基礎実務	料飲部門のスタッフとしての基本知識・技術を習得し、日常接客業務を行えるようにトレーニング	1通2前	72			○	○		○	
	○			コミュニケーション心理学	企業側が採用する人材として、最も重要視されるコミュニケーション能力を身につける	2後	24	○			○		○	
	○			英語	様々な場面で外国人とコミュニケーションが図れるスタッフの育成	1通	48	○			○		○	
	○			パーソナルカラー検定	色の持つ性質や効果に関する知識を学び、人の印象に関わる色としての効果を実践的に活用する為、パーソナルカラー検定3級資格取得を目標とする	1通	48	○			○		○	
	○			ブライダルプランナー検定	日本のみではなく欧米のブライダル知識も学び、ブライダルプランナー検定2級の資格取得を目指す	1通2前	72	○			○		○	
	○			ブライダル概論	ブライダルの業態・歴史・挙式スタイル・披露宴スタイル・プランナー業務等を理解し、国家検定である3級ブライダルコーディネーター技能検定資格取得を目指す	1通2前	60	○			○		○	
	○			ドレスフィティング	衣裳の試着、お色直しなど様々なシチュエーションを想定し、フィッティングの実技を行う	1前	24			○	○		○	
	○			和装実習	日本の伝統衣裳である和装の基礎知識を習得し、着付け技術を身につける	1通	48	○			○		○	
	○			ヘアメイク実習	基本的な基礎化粧に関する知識を学び、より美しく見せるためのスキルとテクニックを身につけ、就活にも活かす	1通	48			○	○		○	
	○			ブライダルヘアメイク実習	衣裳や会場コーディネートに合わせたメイクやヘアアレンジの基礎知識及び技術を身に付ける	2通	48			○	○		○	
	○			ネイル実習	花嫁にとって大切なコーディネートアイテムの一つであるネイルアートの基礎知識とトータルコーディネート術を身につける	2通	48			○	○		○	
	○			フラワーアレンジメント	ブライダルのあらゆるシーンで関わるフラワーアレンジメントを制作するための基本的な知識と技術を学ぶ	2通	36			○	○		○	
	○			ブライダルゼミ	ブライダル業界の現状や課題を考察し、実際のブライダル企業を研究する	2後	24	○			○		○	
	○			インテグラルスタディ	実際に本物の挙式を創り上げることにより業界への関心を深めモチベーションをあげるとともにチームワークの必要性を学ぶ	2通	96			○	○		○	
	○			ブライダルサービス実習	披露宴サービスを実践的にトレーニング	2通	48			○	○		○	
	○			ウェディングプランナー実務	人生の一大イベントであるブライダルには多くの商品があり商品知識及び受注までのプランニング及び接客スキルを学ぶ	1後2通	72	△		○	○		○	
	○			ドレスコーディネーター実務	婚礼衣裳に関する知識を習得し接客営業トータルコーディネーター、挙式当日までの一連の業務を学ぶ	1後2通	72	△		○	○		○	
	○			業界ゼミ	現役ブライダル業界人をキャリアモデルとして捉えると同時に、ブライダルの現場の新鮮な情報を得て業界への関心を拡大する	1前	12	○			○		○	
	○			H/R	必要事項の連絡とクラスコミュニケーション	1通2通	48	○			○		○	
	○			就職対策ゼミ	就職内定獲得を目標に、履歴書、志望動機、自己PR、採用試験、面接等のスキルアップ	1後2前	36	○			○		○	
	○			面接対策	就職内定獲得に向けた面接のポイントを学ぶ	1後2前	48	○			○		○	

28	○	オリエンテーション	入学当初及び進級後のモチベーションを維持させる為、学校ルールの説明に加え、講話を実施する。	1 通 2 通	45		○	△	○	○				
29	○	Firstステイ	実際にお客様としてホテルを利用し、ブライダルとホテルの繋がりや重要性を学び、学生生活に必要な心構えや、将来社会人として必要な最低限のマナーを身に付ける	1 前	16		○	△	△	○	○			
30	○	Tableマナー	フランス料理のフルコースを体験し、ブライダルスタッフとして必要なフランス料理のメニュー・サービス技術・テーブルマナーを身に付ける	1 前	4		△	△	○	○	○			
31	○	Bridalツアー	札幌市内のブライダル施設を実際に見学し、スタッフの話を聞く事で今後の授業に役立てて生かしていく	1 前	8		○	△	○	○				
32	○	Resortステイ	北海道のリゾートホテルに宿泊し、リゾートの接客技術を理解する	1 前 2 前	32		△	△	○	○	○			
33	○	Tokyoディスカバリー	首都圏のブライダル部門に注力しているホテルや人気と高い、衣裳店・ゲストハウス系施設を見学することで首都圏での最新トレンドを知る	1 前	32		○	△	○	○				
34	○	プレブライダルJack	2年生が施行する婚礼にゲストとして参加し、身だしなみやマナー・社交性を養う。また、本物の結婚式・披露宴の理解を深めると共に学習の到達目標を意識付ける	1 後	6		△	○	○	○				
35	○	ブライダルJack	ブライダル業務についての学習の集大成として、一般の新郎新婦様のリアルウェディングを学生主導で役割分担をし、チームとしてトータルプロデュースをする	2 後	12		△	○	○	○				
36	○	ABC検定対策	ブライダルプランナー検定試験合格に向けた検定直前対策授業	2 後	16		○		○	○				
37	○	企業実習	1年間学んだ事の総復習として、実際にブライダルで実習し、ブライダル業の魅力や仕事の厳しさを知り、就職活動の第一歩とする	1 後	##				○	○				○
38	○	HRS夏季集中講座	国家資格である、レストラン・サービス技能検定3級資格取得を目的とする検定直前対策授業	2 前	24		○		○		○			
39	○	2年Ⅲ期集中講座	業界にかかわる様々な知識やトレンドに触れ、体験することで業界の魅力や、業界就職時に活用できる実践的な科目	2 後	74		△	○	○	○				
合計					39	科目	1925 単位 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件: 前、後期評定「可(50点)」以上、出席率90%以上		1学年の学期区分	2期
履修方法: 指定された科目を履修		1学期の授業期間	12週

- (留意事項)
- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																															
経専北海道観光専門学校		平成21年6月21日		中田 靖泰		〒 005-0003 (住所) 札幌市南区澄川3条6丁目4-3 (電話) 011-837-0200																															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																															
学校法人経専学園		昭和48年4月24日		山本 清		〒 005-0004 (住所) 札幌市南区澄川4条4丁目1-1 (電話) 011-824-1000																															
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																															
商業実務	商業実務専門課程	観光サービス学科(旅行科)		平成22(2010)年度	-	平成26(2014)年度																															
学科の目的	本校は、教育基本法及び学校教育法の精神に則り、観光業界に幅広く携わる有能な人材を育成するとともに、ホスピタリティ精神を身につけた国際人を育成することによって、観光業界の発展に寄与することを目的とする。																																				
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	旅行業界において旅行業務の知識・技術を持った人材育成を目指す。 取得可能な資格:国内旅行業務取扱管理者試験 2022年度中退学者2名 中退率15.4%																																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																													
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,854 単位時間 単位	1,153 単位時間 単位	単位時間 単位	989 単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位																													
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																																	
300人	6人	1人		17%																																	
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>10</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>10</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>9</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>9</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>90</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>90</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和4年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 旅行会社、ホテル</p>									■卒業者数(C)	10	人	■就職希望者数(D)	10	人	■就職者数(E)	9	人	■地元就職者数(F)	9	人	■就職率(E/D)	90	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	100	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	90	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業者数(C)	10	人																																			
■就職希望者数(D)	10	人																																			
■就職者数(E)	9	人																																			
■地元就職者数(F)	9	人																																			
■就職率(E/D)	90	%																																			
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	100	%																																			
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	90	%																																			
■進学者数	0	人																																			
■その他																																					
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																				
当該学科のホームページURL	https://www.keisen-kankou.com/course/hotel																																				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,854 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,625 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>229 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>									総授業時数	1,854 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,625 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	229 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	1,854 単位時間																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																				
うち必修授業時数	1,625 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	229 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																				
総授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																				
うち必修授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																				
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>4人</td> </tr> </table>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	4人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	4人		4人														
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	4人																																				
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人																																				
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																				
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																				
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																				
計	4人																																				
	4人																																				

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学教育理念に基づき、早期からの職業理解や目的意識を持たせるためのキャリア形成支援を職業実務の実践性を含めた多様な教育プログラムで実施している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム編成に関して、企業及び業界団体等の意見・助言を活かしたカリキュラムの改善を図り、専修学校教育に必要な最新の知識・技術を反映するための連携体制を確立するために、教育課程編成委員会を学校長のもとに位置付ける。学校が編成したカリキュラム案を教育課程編成委員会に提案し、教育課程編成委員会は改善のための意見・助言を学校長に報告し、これを学校長が審議し、判断をすることになっている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
上野 文一	一般社団法人 日本ソムリエ協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
佐々木 博章	株式会社Yoichi Resort	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
秋野 正明	一般社団法人 日本旅行業協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
藤川 美樹	株式会社TEI	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
香川 朗	経専北海道観光専門学校		—
稲場 啓剛	経専北海道観光専門学校		—
宝賀 知之	経専北海道観光専門学校		—
藤崎 真希子	経専北海道観光専門学校		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年10月12日 16:00～17:00

第2回 令和5年3月13日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員より、英語力を強化すべきとの意見があり、その対策として語学授業の時間数を増やすことができないか議論した。継続検討し、次年度以降のカリキュラムに反映させる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本学教育理念に基づき、早期からの職業理解や目的意識を持たせるためのキャリア形成支援を職業実務の実践性を含めた多様な教育プログラムで実施している。また、業界の動向やその職業に従事するにあたって必要な知識、技能、能力や態度について実感をもって理解させる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

各ホテル・ブライダル企業に出向き、各地域、各分野の企業の目的・仕事内容について学びながら、総合的な仕事ができる為の基礎能力を養うことを目的とする。宿泊業務、飲料業務、宴会業務、客室業務の他に社会人マナーなどを就職する前に習得・体験させる。評価については、挨拶、積極性、仕事の質、身だしなみ、言葉使いなどについて判断していただく。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
添乗実務	添乗業務を行う上での基礎的知識を学ぶ	株式会社TEI
添乗研修旅行	添乗実務の授業の総まとめとして、国内の有名観光地を実際に見ながら、添乗員の仕事を体験し、今後の仕事に活かす	株式会社TEI
道内研修旅行	北海道に就職する学生が多いため、北海道内の観光地を旅行する事で、移動距離を実感しながら地理を学び、将来の仕事に活かす	株式会社TEI
海外研修旅行	海外旅行が大衆化する中で、出入国手続きや海外でのショッピングなどを通じて学んできた語学を活用する。	株式会社ツアー・ウェーブ
プレゼンテーション	2年生後期に作成した旅行企画において、実際の旅行会社スタッフによる審査を行うプレゼンテーション	株式会社コープトラベル

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校教育理念及び教育方針・指針に基づき、教育養成において指導力の向上を図りキャリア教育に関する必要な知識や指導方法を習得させるために「教職員研修」を実施する。

・産業団体や協会等が開催する講演会や研修に教員を派遣する。

・教育支援活動として協力いただいている企業と連携し、「必要とされる専門知識・技能の習得」等についての意見交換会を実施する

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Jプレゼンスアカデミー研修	連携企業等:	キャプラン株式会社
期間:	2022年12月22日	対象:	教員
内容:	2年生の面接対策セミナーに同行、オブザーバーとして5時間程度のセミナーを聴講する。		
研修名:	Bridalツアー	連携企業等:	ブライダルハウスBIBI
期間:	2022年5月26日	対象:	教員
内容:	現在のブライダル業界におけるブライダル運営方法・最新事情を理解し、学生に与える授業内容の更新に役立てる。		
研修名:	添乗研修	連携企業等:	株式会社TEI
期間:	2022年5月23日	対象:	教員
内容:	添乗実務研修において、現役添乗員と一緒に同行し現場における指導方法並びに今後の指導に役立てる。		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	教員研修	連携企業等:	北海道専修学校各種学校連合会
期間:	2022年8月2日	対象:	教員
内容:	専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上。教育関連講義を受講し、授業方法、学生指導に役立てる。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Jプレゼンスアカデミー研修	連携企業等:	キャプラン株式会社
期間:	令和5年12月	対象:	教員
内容	2年生の面接対策セミナーに同行、オブザーバーとして5時間程度のセミナーを聴講する。		
研修名:	Bridalツアー	連携企業等:	ブライダルハウスBIBI
期間:	令和5年5月	対象:	教員
内容	現在のブライダル業界におけるブライダル運営方法・最新事情を理解し、学生に与える授業内容の更新に役立てる。		
研修名:	添乗研修	連携企業等:	株式会社TEI
期間:	令和5年5月	対象:	教員
内容	添乗実務研修において、現役添乗員と一緒に同行し現場における指導方法並びに今後の指導に役立てる。		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	教員研修	連携企業等:	北海道専修学校各種学校連合会
期間:	令和5年8月	対象:	教員
内容	専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上。教育関連講義を受講し、授業方法、学生指導に役立てる。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本学は、常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめとする教育活動や教育環境、学校運営の状況について、自己点検・評価はもとより、企業等、学校関係者等が評価に参画する学校関係者評価委員会を設置して客観的な点検及び評価を行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員より、教える側もこちらの常識にとらわれることなく、学生を見て、理解度をはかりながら指導していくことが必要との提案を受け、教育内容の見直し、充実を尚一層図っていくこととした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
能代 茂	学校法人札幌静修学園 札幌静修高等学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校
中村 正彦	JR北海道ホテルズ株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業
木田 武	セブンイレブン札幌自衛隊前店	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域住民
大上 祥矢	名鉄観光サービス株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.keisen-kankou.com/>

公表時期: 2023年8月1日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 観光サービス学科 (旅行科))													
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	
	○			旅行業法	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な旅行会社運営の知識	1前	36	○			○		○
	○			旅行業約款	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な旅行契約の知識	1前	48	○			○		○
	○			国内観光地理	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な日本国内の観光地情報の知識	1前	48	○			○		○
	○			J R運賃・料金	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠なJR運賃料金の知識	1前	48	○			○		○
	○			国内運賃・料金	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な航空・バス・フェリー宿泊知識	1前	36	○			○		○
	○			海外旅行実務	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な時差・OAG・海外ホテル知識	1通	36	○			○		○
	○			旅行業法	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な旅行会社運営の知識	2前	11	○			○		○
	○			旅行業約款	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な旅行契約の知識	2前	11	○			○		○
	○			国内観光地理	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な日本国内の観光地情報の知識	2前	22	○			○		○
	○			J R運賃・料金	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠なJR運賃料金の知識	2前	11	○			○		○
	○			国内運賃・料金	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な航空・バス・フェリー宿泊知識	2前	11	○			○		○
	○			海外旅行実務	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な時差・OAG・海外ホテル知識	2前	22	○			○		○
	○			国際航空運賃	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な国際航空券知識	2前	22	○			○		○
	○			出入国法令	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な旅券法などの出入国法令知識	2前	11	○			○		○
	○			観光英語Ⅱ	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な語学知識	2前	11	○			○		○
	○			海外観光地理	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な海外観光地情報知識	1後2前	57	○			○		○
	○			観光英語Ⅰ	様々な場面で外国人旅行者とコミュニケーションがとれるスタッフとしての英語知識及び国家試験取得に向けての知識	1通	24	○			○		○
	○			航空予約端末演習	旅行・航空業界で航空座席や旅行商品を手配する為の国内線コンピュータ予約システムの操作	1通	48			○	○		○
	○			航空予約端末演習Ⅱ	旅行・航空業界で航空座席や旅行商品を手配する為の国際線コンピュータ予約システムの操作	2前	22			○	○		○
	○			時刻表実務	J R時刻表全国版の見方・使い方を基礎・応用を学ぶ	1前	12	○			○		○
	○			国内旅行企画Ⅰ(手配)	国内旅行における企画・見積りの知識を学ぶ	1後	36				○		○
	○			国内旅行企画Ⅱ(個人)	国内旅行における受注型手配旅行の企画・見積りの知識を学ぶ	2前	22				○		○
	○			国内旅行企画Ⅲ(企画書集)	国内旅行における募集型企画旅行の企画書・原価計算・パンフレット作成を行う	2後	96				○		○
	○			海外旅行企画(企画書集)	海外旅行における募集型企画旅行の企画書・原価計算・パンフレット作成を行う	2後	96				○		○
	○			旅行企画	国内旅行企画Ⅲ及び海外旅行企画の制作を行う上での研究・作成を行う	2後	48				○		○
	○			国内観光知識	国内観光資源の復習及び総まとめ	2後	24	○			○		○
	○			ビジネスマナー	社会人として知っていなければならないビジネス知識やビジネスマナーの習得	1通	48				○		○

28	○	筆記試験対策	就職試験に向けての一般常識・小論文対策	1 後 2 前	46	○		○	○	○		
29	○	パソコン	企画書・原価計算・パンフレットの作成	2 後	72			○	○	○		
30	○	日本語検定	正しい日本語を学び、社会人マナーを身に付け日本語検定3級を目指す	1 通	48	○		○		○		
31	○	就職対策（就職準備）	就職活動開始に向けての準備（適性検査・セミナー・ペン字講習他）を行う	1 後 2 前	12	○		○	○	○		
32	○	就職ゼミ	就職試験に向けてルールや企業研究・動向調査等を行う	1 後 2 通	35	○		○	○	○		
33	○	社会人雑学	社会人として仕事する上で必要最低限の法律等を理解する	2 前	11	○		○	○	○		
34	○	面接対策	就職試験の中でも一番合否を左右する面接試験の対策を行う	1 後 2 前	46			○	○	○		
35	○	ホームルーム	必要事項の連絡とクラスコミュニケーション	1 通 2 通	47	○		○	○	○		
36	○	カウンター実務（国内）	旅行会社のカウンター業務の知識（国内）を実践を通して学ぶ	1 後 2 前	46			○	○	○		
37	○	カウンター実務（海外）	旅行会社のカウンター業務の知識（海外）を実践を通して学ぶ	1 後 2 前	46			○	○	○		
38	○	添乗実務	添乗業務を行う上での基礎的知識を学ぶ	1 後 2 前	46	○		○		○	○	
39	○	手話	聴力障がい者に対して接客の基礎を学ぶ	1 後 2 前	46	△		○	○	○		
40	○	韓国語	第2外国語として韓国語の簡単な読み書き・会話を学ぶ	1 後 2 前	46	○	△	○		○		
41	○	英会話	海外旅行業務に必要な必要最低限の会話力を身に付ける	1 後 2 前	46			○	○	○		
42	○	春季 特別授業	入学当初のモチベーションを持続させる為、学校ルールの説明に加え、観光業界で活躍する卒業生を招き、業界講話を実施する	1 前 2 前	71	○	△	○	○	○	○	
43	○	ノーマライゼーション	健常者だけに限らず障害者への対応が増えている為、障害者を正しく理解し、バリアフリー社会を理解する	1 後	8			○	○	○		
44	○	普通救命講習	就職後の添乗業務などで旅先で事故などが発生した際に、応急処置をする技術を身に付ける	1 後	4			○	○	○		
45	○	秋季 特別授業	1年後期授業開講前に直前に行なわれる検定試験や就職活動に向けた準備を行う	1 後	13	○	△	○	○	○		
46	○	添乗研修旅行	添乗実務の授業の総まとめとして、国内の有名観光地を実際に見ながら、添乗員の仕事を体験し、今後の仕事に活かす	2 前	32			○	○	○	○	
47	○	道内研修旅行	北海道に就職する学生が多いため、北海道内の観光地を旅行する事で、移動距離を実感しながら地理を学び、将来の仕事に活かす	1 前 2 前	48			○	○	○	○	
48	○	海外研修旅行	海外旅行が大衆化する中で、出入国手続きや海外でのショッピングなどを通じて学んできた語学を活用する。	1 後	24			○	○	○	○	
49	○	国家試験特別講義	国家資格である国内・総合旅行業務取扱管理者の試験の直前に集中講座として、弱点克服の為の特別講義を行い、全員合格を目指す	1 前 2 前	231	○			○	○	○	
50	○	パソコン特別授業	個人のレベルに合わせて、ワープロ検定及び情報処理技能検定（エクセル）の取得を目指す。合わせて、この知識を実現場で活用できるようにする。	1 後	17			○	○	○	○	
51	○	プレゼンテーション	2年生後期に作成した旅行企画において、実際の旅行会社スタッフによる審査を行うプレゼンテーション	2 後	8			○	○		○	○
合計					51	科目	1854 単位（単位時間）					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	前、後期評定「可（50点）」以上、出席率90%以上	1学年の学期区分	2期
履修方法：	指定された科目を履修	1学期の授業期間	12週

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																															
経専北海道観光専門学校		平成21年6月21日		中田 靖泰		〒 005-0003 (住所) 札幌市南区澄川3条6丁目4-3 (電話) 011-837-0200																															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																															
学校法人経専学園		昭和48年4月24日		山本 清		〒 005-0004 (住所) 札幌市南区澄川4条4丁目1-1 (電話) 011-824-1000																															
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																															
商業実務	商業実務専門課程	観光サービス学科(鉄道科)		平成22(2010)年度	-	平成26(2014)年度																															
学科の目的	本校は、教育基本法及び学校教育法の精神に則り、観光業界に幅広く携わる有能な人材を育成するとともに、ホスピタリティ精神を身につけた国際人を育成することによって、観光業界の発展に寄与することを目的とする。																																				
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	鉄道業界において鉄道業務の知識・技術を持った人材育成を目指す。 取得可能な資格:国内旅行業務取扱管理者試験 2022年度中退学者2名 中退率9.1%																																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																													
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,854 単位時間 単位	1,235 単位時間 単位	単位時間 単位	1,001 単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位																													
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																																	
300人	15人	0人		0%																																	
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>10</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>10</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>9</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>9</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>90</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>90</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和4年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 鉄道会社</p>									■卒業者数(C)	10	人	■就職希望者数(D)	10	人	■就職者数(E)	9	人	■地元就職者数(F)	9	人	■就職率(E/D)	90	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	100	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	90	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業者数(C)	10	人																																			
■就職希望者数(D)	10	人																																			
■就職者数(E)	9	人																																			
■地元就職者数(F)	9	人																																			
■就職率(E/D)	90	%																																			
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	100	%																																			
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	90	%																																			
■進学者数	0	人																																			
■その他																																					
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																				
当該学科のホームページURL	https://www.keisen-kankou.com/course/hotel																																				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,854 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,742 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>112 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>									総授業時数	1,854 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,742 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	112 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	1,854 単位時間																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																				
うち必修授業時数	1,742 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	112 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																				
総授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																				
うち必修授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																				
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>4人</td> </tr> </table>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	4人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	4人		4人														
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	4人																																				
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人																																				
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																				
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																				
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																				
計	4人																																				
	4人																																				

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
本学教育理念に基づき、早期からの職業理解や目的意識を持たせるためのキャリア形成支援を職業実務の実践性を含めた多様な教育プログラムで実施している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
カリキュラム編成に関して、企業及び業界団体等の意見・助言を活かしたカリキュラムの改善を図り、専修学校教育に必要な最新の知識・技術を反映するための連携体制を確立するために、教育課程編成委員会を学校長のもとに位置付ける。学校が編成したカリキュラム案を教育課程編成委員会に提案し、教育課程編成委員会は改善のための意見・助言を学校長に報告し、これを学校長が審議し、判断をすることになっている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
上野 文一	一般社団法人 日本ソムリエ協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
佐々木 博章	株式会社Yoichi Resort	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
秋野 正明	一般社団法人 日本旅行業協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
藤川 美樹	株式会社TEI	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
香川 朗	経専北海道観光専門学校		—
稲場 啓剛	経専北海道観光専門学校		—
宝賀 知之	経専北海道観光専門学校		—
藤崎 真希子	経専北海道観光専門学校		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))
第1回 令和4年10月12日 16:00～17:00
第2回 令和5年3月13日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
教育課程編成委員より、英語力を強化すべきとの意見があり、その対策として語学授業の時間数を増やすことができないか議論した。継続検討し、次年度以降のカリキュラムに反映させる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本学教育理念に基づき、早期からの職業理解や目的意識を持たせるためのキャリア形成支援を職業実務の実践性を含めた多様な教育プログラムで実施している。また、業界の動向やその職業に従事するにあたって必要な知識、技能、能力や態度について実感をもって理解させる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

各ホテル・ブライダル企業に出向き、各地域、各分野の企業の目的・仕事内容について学びながら、総合的な仕事ができる為の基礎能力を養うことを目的とする。宿泊業務、飲料業務、宴会業務、客室業務の他に社会人マナーなどを就職する前に習得・体験させる。評価については、挨拶、積極性、仕事の質、身だしなみ、言葉使いなどについて判断していただく。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
鉄道研修旅行	鉄道企画の授業の総まとめとして、国内の有名観光地を実際に観光しながら、全国各地の鉄道に乗車体験し、今後の仕事に活かす	株式会社TEI
道内研修旅行	北海道に就職する学生が多いため、北海道内の観光地を旅行する事で、移動距離を実感しながら地理を学び、将来の仕事に活かす	株式会社TEI
海外研修旅行	海外旅行が大衆化する中で、出入国手続きや海外でのショッピングなどを通じて学んできた語学を活用する。	株式会社ツアー・ウェーブ
プレゼンテーション	2年生後期に作成した旅行企画において、実際の旅行会社スタッフによる審査を行うプレゼンテーション	株式会社コープトラベル

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 本校教育理念及び教育方針・指針に基づき、教育養成において指導力の向上を図りキャリア教育に関する必要な知識や指導方法を習得させるために「教職員研修」を実施する。 ・産業団体や協会等が開催する講演会や研修に教員を派遣する。 ・教育支援活動として協力いただいている企業と連携し、「必要とされる専門知識・技能の習得」等についての意見交換会を実施する	
(2)研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: Jプレゼンスアカデミー研修	連携企業等: キャプラン株式会社
期間: 令和4年12月22日	対象: 教員
内容 2年生の面接対策セミナーに同行、オブザーバーとして5時間程度のセミナーを聴講する。	
研修名: Bridalツアー	連携企業等: ブライダルハウスBIBI
期間: 令和4年5月26日	対象: 教員
内容 現在のブライダル業界におけるブライダル運営方法・最新事情を理解し、学生に与える授業内容の更新に役立てる。	
研修名: 添乗研修	連携企業等: 株式会社TEI
期間: 令和4年5月23日	対象: 教員
内容 添乗実務研修において、現役添乗員と一緒に同行し現場における指導方法並びに今後の指導に役立てる。	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 教員研修	連携企業等: 北海道専修学校各種学校連合会
期間: 令和4年8月2日	対象: 教員
内容 専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上。教育関連講義を受講し、授業方法、学生指導に役立てる。	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Jプレゼンスアカデミー研修	連携企業等:	キャプラン株式会社
期間:	令和5年12月	対象:	教員
内容	2年生の面接対策セミナーに同行、オブザーバーとして5時間程度のセミナーを聴講する。		
研修名:	Bridalツアー	連携企業等:	ブライダルハウスBIBI
期間:	令和5年5月	対象:	教員
内容	現在のブライダル業界におけるブライダル運営方法・最新事情を理解し、学生に与える授業内容の更新に役立てる。		
研修名:	添乗研修	連携企業等:	株式会社TEI
期間:	令和5年5月	対象:	教員
内容	添乗実務研修において、現役添乗員と一緒に同行し現場における指導方法並びに今後の指導に役立てる。		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	教員研修	連携企業等:	北海道専修学校各種学校連合会
期間:	令和5年8月	対象:	教員
内容	専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上。教育関連講義を受講し、授業方法、学生指導に役立てる。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本学は、常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめとする教育活動や教育環境、学校運営の状況について、自己点検・評価はもとより、企業等、学校関係者等が評価に参画する学校関係者評価委員会を設置して客観的な点検及び評価を行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員より、教える側もこちらの常識にとらわれることなく、学生を見て、理解度をはかりながら指導していくことが必要との提案を受け、教育内容の見直し、充実を尚一層図っていくこととした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
能代 茂	学校法人札幌静修学園 札幌静修高等学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校
中村 正彦	JR北海道ホテルズ株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業
木田 武	セブンイレブン札幌自衛隊前店	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域住民
大上 祥矢	名鉄観光サービス株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.keisen-kankou.com/>

公表時期: 2023年8月1日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 観光サービス学科 (旅行科))													
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	
	○			旅行業法	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な旅行会社運営の知識	1前	36	○			○		○
	○			旅行業約款	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な旅行契約の知識	1前	48	○			○		○
	○			国内観光地理	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な日本国内の観光地情報の知識	1前	48	○			○		○
	○			J R運賃・料金	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠なJR運賃料金の知識	1前	48	○			○		○
	○			国内運賃・料金	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な航空・バス・フェリー宿泊知識	1前	36	○			○		○
	○			海外旅行実務	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な時差・OAG・海外ホテル知識	1通	36	○			○		○
	○			旅行業法	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な旅行会社運営の知識	2前	11	○			○		○
	○			旅行業約款	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な旅行契約の知識	2前	11	○			○		○
	○			国内観光地理	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な日本国内の観光地情報の知識	2前	22	○			○		○
	○			J R運賃・料金	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠なJR運賃料金の知識	2前	11	○			○		○
	○			国内運賃・料金	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な航空・バス・フェリー宿泊知識	2前	11	○			○		○
	○			海外旅行実務	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な時差・OAG・海外ホテル知識	2前	22	○			○		○
	○			国際航空運賃	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な国際航空券知識	2前	22	○			○		○
	○			出入国法令	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な旅券法などの出入国法令知識	2前	11	○			○		○
	○			観光英語Ⅱ	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な語学知識	2前	11	○			○		○
	○			海外観光地理	国家試験取得や実際の業務でも必要不可欠な海外観光地情報知識	1後2前	57	○			○		○
	○			観光英語Ⅰ	様々な場面で外国人旅行者とコミュニケーションがとれるスタッフとしての英語知識及び国家試験取得に向けての知識	1通	24	○			○		○
	○			航空予約端末演習	旅行・航空業界で航空座席や旅行商品を手配する為の国内線コンピュータ予約システムの操作	1通	48			○	○		○
	○			航空予約端末演習Ⅱ	旅行・航空業界で航空座席や旅行商品を手配する為の国際線コンピュータ予約システムの操作	2前	22			○	○		○
	○			時刻表実務	J R時刻表全国版の見方・使い方を基礎・応用を学ぶ	1前	12	○			○		○
	○			国内旅行企画Ⅰ(手配)	国内旅行における企画・見積りの知識を学ぶ	1後	36				○		○
	○			国内旅行企画Ⅱ(個人)	国内旅行における受注型手配旅行の企画・見積りの知識を学ぶ	2前	22				○		○
	○			国内旅行企画Ⅲ(企画書集)	国内旅行における募集型企画旅行の企画書・原価計算・パンフレット作成を行う	2後	96				○		○
	○			海外旅行企画(企画書集)	海外旅行における募集型企画旅行の企画書・原価計算・パンフレット作成を行う	2後	96				○		○
	○			旅行企画	国内旅行企画Ⅲ及び海外旅行企画の制作を行う上での研究・作成を行う	2後	48				○		○
	○			国内観光知識	国内観光資源の復習及び総まとめ	2後	24	○			○		○
	○			ビジネスマナー	社会人として知っていなければならないビジネス知識やビジネスマナーの習得	1通	48				○		○

28	○	筆記試験対策	就職試験に向けての一般常識・小論文対策	1 後 2 前	46	○		○	○	○		
29	○	パソコン	企画書・原価計算・パンフレットの作成	2 後	72			○	○	○		
30	○	日本語検定	正しい日本語を学び、社会人マナーを身に付け日本語検定3級を目指す	1 通	48	○		○		○		
31	○	就職対策（就職準備）	就職活動開始に向けての準備（適性検査・セミナー・ペン字講習他）を行う	1 後 2 前	12	○		○	○	○		
32	○	就職ゼミ	就職試験に向けてルールや企業研究・動向調査等を行う	1 後 2 通	35	○		○	○	○		
33	○	社会人雑学	社会人として仕事する上で必要最低限の法律等を理解する	2 前	11	○		○	○	○		
34	○	面接対策	就職試験の中でも一番合否を左右する面接試験の対策を行う	1 後 2 前	46			○	○	○		
35	○	ホームルーム	必要事項の連絡とクラスコミュニケーション	1 通 2 通	47	○		○	○	○		
36	○	鉄道業界知識	JR北海道を中心に鉄道業界全般の知識	1 後	12	○		○	○	○		
37	○	駅業務知識	JR北海道の駅で販売されている切符等の販売知識	1 後 2 前	46			○	○	○		
38	○	適性検査対策	鉄道会社の就職試験の一つであるクレベリン適性検査等の対策	1 後	12			○	○	○		
39	○	パブリックスピーチ	人前で話し方を身に付け駅アナウンス等を行う	1 後 2 前	46			○	○	○		
40	○	北海道観光知識	JR北海道への就職を目指すうえで、北海道の観光地と最寄駅、運行列車等の知識を学ぶ	2 前	22	○		○		○		
41	○	手話	聴力障がい者に対して接客の基礎を学ぶ	1 後 2 前	46	△		○	○	○		
42	○	韓国語	第2外国語として韓国語の簡単な読み書き・会話を学ぶ	1 後 2 前	46	○	△	○		○		
43	○	英会話	海外旅行業務で必要な必要最低限の会話を身に付ける	1 後 2 前	46			○	○	○		
44	○	春季 特別授業	入学当初のモチベーションを継続させる為、学校ルールの説明に加え、観光業界で活躍する卒業生を招き、業界講話を実施する	1 前 2 前	71	○	△	○	○	○	○	
45	○	ノーマライゼーション	健常者だけに限らず障害者への対応が増えている為、障害者を正しく理解し、バリアフリー社会を理解する	1 後	8			○	○	○		
46	○	普通救命講習	就職後の添乗業務などで旅先で事故などが発生した際に、応急処置をする技術を身に付ける	1 後	4			○	○	○		
47	○	秋季 特別授業	1年後期授業開講前に直前に行なわれる検定試験や就職活動に向けた準備を行う	1 後	13	○	△	○	○	○		
48	○	鉄道研修旅行	鉄道企画の授業の総まとめとして、国内の有名観光地を実際に観光しながら、全国各地の鉄道に乗車体験し、今後の仕事に活かす	2 前	32			○	○	○	○	
49	○	道内研修旅行	北海道に就職する学生が多いため、北海道内の観光地を旅行する事で、移動距離を実感しながら地理を学び、将来の仕事に活かす	1 前 2 前	48			○	○	○	○	
50	○	海外研修旅行	海外旅行が大衆化する中で、出入国手続きや海外でのショッピングなどを通じて学んできた語学を活用する。	1 後	24			○	○	○	○	
51	○	国家試験特別講義	国家資格である国内・総合旅行業務取扱管理者の試験の直前に集中講座として、弱点克服の為の特別講義を行い、全員合格を目指す	1 前 2 前	231	○			○	○	○	
52	○	パソコン特別授業	個人のレベルに合わせて、ワープロ検定及び情報処理技能検定（エクセル）の取得を目指す。合わせて、この知識を実現場で活用できるようにする。	1 後	17			○	○	○		
53	○	プレゼンテーション	2年生後期に作成した旅行企画において、実際の旅行会社スタッフによる審査を行うプレゼンテーション	2 後	8			○	○	○	○	
合計					53	科目	1854 単位（単位時間）					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：前、後期評定「可（50点）」以上、出席率90%以上		1学年の学期区分	2期
履修方法：指定された科目を履修		1学期の授業期間	12週

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。